

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 1, No. 3 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Dec., 1995



メコノプシス・ホリデュラ

Meconopsis horridula Hook. f. et THOMSON

ネパール，ゴサインクンドにて
木場英久撮影

木場英久（当館学芸員）

最近、ヒマラヤを紹介する本やテレビ番組に登場することが多くなった「ヒマラヤの青いケシ」は、古くから植物学者や園芸家、採集家などの憧れの植物でした。

ヒマラヤ高山帯の岩場に生えるケシ科の多年草で、草丈は20～50cmと高山植物の中ではかなり大きい部類に入ります。葉や茎に生えた刺が特徴的です。3cmほどの花びらを4～8枚、お椀形に並べて、太陽の熱を花

の中心に集めます。暖まった雄しべと雌しべに、花粉を運ぶ昆虫が集まるといわれています。写真の花の中にも、たくさんの小さな昆虫がいました。

岩に登り、シェルパに背中を支えてもらいながら撮影しました。しばしのあいだ、高山病の頭痛を忘れてファインダーを覗きましたが、息を止めてシャッターを押したので頭がクラクラしました。